



MEIKAI UNIVERSITY



2025 明海大学

「大学と地域連携の未来」

シンポジウム

こどもまんなか社会へ 大学と地域がつなぐ未来の絆

2024年度において明海大学の学生や教職員等が実施した小中高等学校等に対する支援の状況について、「学生の発表」を核にしながら紹介するとともに、その成果と課題などについて広く地域の関係者・関係機関等を交えて考察する中で、「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」の実現に向けて大学と地域の連携がいかに寄与し得るかについて検討します。

対面・
オンラインの
ハイブリッド
開催

開催日	2025年 2月8日 12:30-16:40	会場	明海大学浦安キャンパス (2206講義室)	参加料	無料
申込方法	QRコード、ホームページ またはE-mailにて受付(定員になり次第締切)	開催形式	ハイブリッド形式 (対面と Zoom によるオンラインの併用) 定員▶300名 対面▶100名 オンライン▶200名		

基調講演

12:40~13:40

講師

おおたに みきこ 氏 (弁護士/国連子どもの権利委員)

演題

「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」の実現に向けて

学生発表

13:50~15:25

グループA

大学生による
日本語指導支援

グループB

留学生等による児童・
生徒との交流

グループC

大学生による
学習支援

パネルディスカッション

15:30~16:35

テーマ

こどもまんなか社会へ
大学と地域がつなぐ未来の絆

主催：明海大学教職課程センター・地域学校教育センター

後援：千葉県教育委員会、東京都教育委員会、足立区教育委員会、浦安市教育委員会、時事通信社出版局、日本教育新聞社、(財)きょういく創造育成財団

演題 「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」の実現に向けて

講師 おおたに みきこ 大谷 美紀子 氏 (弁護士／国連子どもの権利委員)

プロフィール

- 上智大学法学部卒、コロンビア大学国際関係公共政策大学院及び東京大学法学政治学研究科修士課程修了。

法学博士（青山学院大学）。日本人初の国連子どもの権利委員、2021年5月から2023年5月まで同委員長。

共著『国際人権法実践ハンドブック』（現代人文社、2007年）、共編著『ハーグ条約の理論と実務 国境を越えた子の奪い合い紛争の解決のために』（法律文化社、2021年）などがある。



講演概要

- ① 子どもの権利条約について
- ② 「こども基本法」および「こども大綱」の重要性
- ③ 「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」とは
- ④ 「こどもまんなか社会」の実現のために必要なこと

MEMO

概要

本学と教育連携協定を締結している、東京都立飛鳥高等学校、南葛飾高等学校及び竹台高等学校で、日本語指導が必要な外国人生徒に対し、外国語学部日本語学科及び応用言語学研究科の学生・院生が日本語指導支援を行いました。

1. 東京都立飛鳥高等学校 全日制

前学期5回、後学期12回の授業を実施しました。生徒は4人いずれも上級レベルで、大学進学を希望しています。教材は前学期で『Try!日本語能力試験N2: 文法から伸ばす日本語』、後学期で『話す・書くにつながる日本語読解中上級』を使用しました。指導においては、文法力と読解力を向上させるとともに、意見を論理的に話し、文章で表現する能力を育成し、大学進学後に必要な日本語力を身に付けさせることを目的としました。

授業の流れ

● 前学期：

本 文	① ウォーミングアップ ② 読み、精度 ③ 内容確認
↓	
文法項目の確認	どう使う？ 例文確認 やってみよう！
↓	
ま と め	まとめの問題

● 後学期：

- ① 目標設定
- ② 話してみよう
- ③ 音読
- ④ 本文の内容確認
- ⑤ 発展（ペアで話し合い、まとめ、表現する）

2. 東京都立南葛飾高等学校

前学期16回、後学期26回の授業を実施しました。生徒は合計18人で、前学期と後学期はN2クラスとN3クラスに分け、前学期と後学期で複数の読解教材を扱いました。日本の高校に相応しい読解力を身に付けることを目的として、読解指導を中心に行うとともに、日本語能力試験（JLPT）の読解項目をクリアできる能力を身に付けられるよう指導しました。

教材リスト①

- 前期N2（上）クラス：
『新完全マスター読解 日本語能力試験N2』
- 後期N2（上）クラス：
『話す・書くにつながる日本語読解 中級』
『中上級学習者のための日本語読解のワークブック』

教材リスト②

- 前期N3（下）クラス：
『新完全マスター読解 日本語能力試験N3』
- 後期N3（下）クラス：
『話す・書くにつながる日本語読解 初中級』
『日本語能力試験文章の文法・読解N3 初中級』

3. 東京都立竹台高等学校

今年度は9月から12月まで計8回の授業を実施しました。各回60分で、生徒は高校3年生1名です。

● 使用教材

- ・『実践日本語シリーズ（初・中級）』の名詞、動詞、慣用句、形容詞編
- ・『どんなときどう使う 日本語表現文型 200 初級～中級』

これらの教材を通じて、生徒が日常生活や学校で日本語を自然に使えるようになることを目指しました。

● 指導の目的

1. **文法と表現力の習得**：よく使われる文型や表現を学び、適切な状況で使用できる力を育成する。
2. **語彙力の向上**：トピックごとに関連する単語や表現を効果的に習得し、幅広い場面で応用できる語彙力を身に付けさせる。
3. **総合的な日本語能力の向上**：読解、作文、会話、リスニングの各スキルをバランスよく向上させ、生徒がN4レベルの知識をより深く理解し、実践的に使えるようにする。
4. **実践的な日本語の練習**：授業中は、生徒が自ら考えて話す時間を増やし、学んだ内容を会話や作文に取り入れることで、日本語を実際に使う場面を意識させる。

限られた時間内で、生徒の個性や学習ペースに合わせた丁寧な指導を心がけました。

概要

東京都足立区の小学生・中学生との交流、東京都立高校生との交流、東京都立高校への訪問の様子について、実際に携わった本学の留学生と学生が具体的な内容を紹介します。

1. 足立区小学生との交流

明海大学あけみ英語村2024

本学の留学生等と足立区の小学生が英語を使って異文化交流を行う「明海大学あけみ英語村2024～小学生異文化交流プロジェクト」を10月と11月に計2回開催しました。

10月8日に足立区立千寿双葉小学校5年生85人と、11月12日には足立区立中川東小学校6年生50人が本学を訪れ、本学の外国人留学生・教職課程履修生約70人と一緒に英語を使った異文化交流を行いました。

はじめに、グループで小学生と留学生の自己紹介及び母国紹介などをして緊張をほぐしました。次に、グループごとに留学生や教職課程履修生たちから英語による説明を聞きながら大学の主要な施設を巡るキャンパスツアーをおこないました。

最後に、多言語コミュニケーションセンター（MLACC）の帕特リツア・ハヤシ教授とタイソン・ロード准教授の指導のもと、小学生は会場を自由に動いて留学生・教職課程履修生と次々とペアになり、英語の質問に答えてご褒美のシールをもらうコミュニケーション活動を楽しみました。

参加した小学生は、「英語が思うように話せなかったけど大学生が優しく教えてくれてもっと頑張ろうと思いました。明海大学のことをたくさん教えてもらって大学に行くことはめったにないので凄いい経験になりました」などと話してくれました。



2. 足立区中学生との交流

中学生との異文化交流会

本学の留学生と足立区の中学生が英語を使って異文化交流を行う異文化交流会を2024年度は4回計画しました。

1回目は、7月10日に本学の留学生13人が足立区立扇中学校で8年生（中学2年生）67人と7年生（中学1年生）66人と英語による異文化交流会を持ちました。

2回目は、10月16日に本学の留学生15人が足立区立谷中中学校で中学2年生165人と英語による異文化交流会を持ちました。

3回目は、12月13日に本学の留学生12人が足立区立花畑中学校で中学2年生98人と英語による異文化交流会に参加しました。

4回目は、1月31日に本学の留学生7人が足立区立栗島中学校で中学2年生65人と英語による異文化交流会を実施しました。

計4回の異文化交流会に参加した留学生は、韓国、中国、ドイツ、ドミニカ共和国、フィリピン、ネパール、ベトナム、香港、マレーシア、ペルーの計10か国・地域出身でした。

参加した中学生たちは「外国人とコミュニケーションをとるには英語が話せるだけでなく笑顔や相槌も必要だと改めて思いました。もっと英語を得意になって外国人といろいろな会話してみたいです」などと話してくれました。



3. 都立高校生徒との交流

大学生と話そう会

5月26日、「2024 大学生と話そう会」が行われました。この行事は、本学と教育連携協定を結んでいる高校の生徒が、直接大学生と交流することで、大学や大学生活について理解を深めることを目的としています。

今年度は、都立飛鳥高校、都立南葛飾高校、都立葛西南高校、都立竹台高校の4校から44人の高校生が参加しました。午前中は大講義室で大学紹介ビデオを視聴し、当日行われているオープンキャンパスの一部である「学科魅力発見コーナー」の見学や学食を体験しました。

午後には30周年記念学生ホールで行われた交流会では、ボランティア学生たちと自己紹介をした後、大学生活についてのQ&Aや、SDGsに関連するテーマでのディスカッションを楽しみました。ボランティアとして参加した25人は教職課程の学生や留学生で、会の運営や高校生との懇談で大いに活躍しました。



4. 都立高校訪問

都立田柄高校での異文化交流会

10月30日、本学と教育連携協定を締結している東京都立田柄高等学校において「異文化交流会」が行われました。

この交流会は、本学外国人留学生と高校生の交流を通じて、お互いの文化について理解を深めることを目的としています。

本学からは、ベトナム、モンゴル、フィリピン出身の留学生8人が参加しました。留学生たちは1年生の5クラスに分かれて、それぞれの自国文化についてスライドや写真を見せながら紹介し、生徒からの質問に答えていました。クラスでの文化紹介の後は国際交流委員の生徒と懇談する機会がもたれました。

参加した学生からは「生徒たちが積極的に質問してくれて嬉しかった」「生徒たちがいろいろな文化に興味をもって聞いてくれて、発表してよかったと思った」という感想が聞かれました。



本学では、本学の留学生と小学生・中学生・高校生との異文化交流を推進しています。小学生・中学生・高校生にとっては、留学生と主に英語を使ってコミュニケーションできる貴重な機会となり英語学習のさらなる必要性を感じる機会になるとともに、世界のさまざまな文化との出会いと相互理解の大切さなどを体験を通して学びます。本学留学生も日本の学校文化や子どもたちと触れ合うことで、日本へのより深い理解につながります。

概要

浦安市「小学校英語支援」と「青少年自立支援未来塾」、「明海小児童育成クラブ」、江戸川区立篠崎中学校「英語部活動支援」、足立区「区民対象の英語講座」と「英語マスター講座修了者スピーチプレゼンテーションコンテスト」における学生による学習支援の様子について紹介します。

1. 浦安市 小学校英語支援

明海大学と浦安市教育委員会との連携協定に基づいて、学生が小学校の英語・外国語活動に参加し、授業の補助を行っています。大学の授業と合わせて、小学校英語の指導の経験を積むことで小学校英語指導者資格を取得することができます。

今年度は、南小学校、舞浜小学校、明海小学校、高洲小学校、入船小学校の5校に外国語学部英米語学科の4年生8人と3年生4人が参加しました。

小学校の先生方からは「英語専科の教員が1人でたくさんの授業を持っているので、学生に来てもらうと本当に助かる」「大学と小学校がウィンウィンの関係で連携できるすばらしい機会となっている」といった感想が寄せられました。



2. 浦安市 青少年自立支援未来塾

浦安市青少年自立支援未来塾は、浦安市教育委員会が実施している市内の公立中学校の生徒を対象とする事業です。

生徒が学習習慣を確立し、基礎・基本の学力を身に付けることができるよう、地域の退職教員や民間教育事業経験者、大学生が数学と英語の学習支援を行います。6か所の公民館を会場に6月から2月にかけて、英語、数学ともに計17回教室が開かれます。

本学からは、教職課程を履修する日本語学科と英米語学科の3、4年生6人が、「未来塾で得た経験と自信をこれからの学校現場で活かしていきたい」といった強い思いを胸に、数学教室、英語教室にそれぞれ参加し、中学生を支援しています。



3. 浦安市 明海小児童育成クラブ

浦安市の児童育成クラブは、就労等により保護者が昼間家庭にいない児童に放課後等に家庭に代わる生活の場を提供する事業です。

明海小児童育成クラブには、180人近い児童が通っています。

本学からは日本語学科の3年生4人、2年生1人がボランティアとして参加し、児童が安心して安全に過ごせるように、様々な形で児童育成クラブでの生活を支援しています。



4. 江戸川区立篠崎中学校 英語部活動支援

部活動外部指導員とは、部活動において顧問と連携・協力しながら、専門的技術指導に対し補助的な役割を果たす外部人材として教育活動の質の向上を図る支援策の一つです。

今年度10月から英米語学科4年生2人が、江戸川区立篠崎中学校英語部の活動に週1回参加し活動を支援しています。具体的には、生徒が創作した英語落語の発表、即興劇（SKIT）、絵本を活用した活動に生徒と一緒に取り組みながらアドバイスをしています。指導を受けている部員のパフォーマンスに触発され、支援している学生もやりがいを感じています。



5. 足立区民対象の英語講座

この講座は、2017年に東京オリンピック・パラリンピック開催に対応するために、「外国人おもてなし語学ボランティアブラッシュアップ講座」と「大人の初級英会話講座」の2本立てで1講座全5回、年間2クール実施の形で始まりました。

今年度は、講座名を「海外旅行&インバウンドにも対応！旅と出会いの初級英会話講座」とし、各回2時間の全5回のプログラムを2クール実施しました。

本講座へは毎年多くの区民から応募をいただき、第1クール32人、第2クール31人の方が幅広い年齢層から選ばれ、受講しました。

毎回、英米語学科の教職課程を履修している学生2～3人が活動のサポート役として参加し、受講生の学ぶ姿勢からたくさんの刺激を受けるよい機会となりました。



6. マスター講座修了者成果発表会

「足立区英語マスター講座」を修了した中高生が、本学を会場としてその成果を発表しています。第6回となる今年度は11月3日に6人の中学生がスピーチ・プレゼンテーションを行いました。

明海大学からは、英米語学科で教職課程を履修している3人がゲストスピーカーとしてモデルを示したほか、総合司会や進行補助、審査員補助、オーディオ機器操作、記録写真等の運営業務を担当しました。

英語教員を目指す大学生にとっては、中高生の英語学習成果を知る機会であり、中学生にとっては臨機応変に英語を使いこなす大学生の姿が学習への動機付けとなりました。



大学生にとって地域への支援という形で学修の成果を活用できることは大変大きな喜びです。大学生と地域の方々双方が満足感を得られるこの学習支援を今後も継続できればと願っています。

テーマ こどもまんなか社会へ 大学と地域がつなぐ未来の絆

概要

連携事業に関わる教育委員会や学校、連携事業に参加した学生の視点から、「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」の実現に向けて大学と地域の連携がいかに寄与し得るかについて議論を深めます。

パネリスト・コーディネーター



さだの つかさ
| 定野 司 氏 |

東京都東京みらい中学校
校長



かわせ ゆたか
| 川瀬 穰 氏 |

東京都足立区教育委員会
統括指導主事



だてざき ひろし
| 伊達崎 広 氏 |

東京都立南葛飾高等学校
校長



いけうち なつみ
| 池内 夏美 |

明海大学外国語学部
英米語学科 4年



やすだ ゆうき
| 安田 結貴 |

明海大学外国語学部
英米語学科 4年



コーディネーター

やまもと せいし
| 山本 聖志 |
明海大学地域学校教育センター
教授

流れ

- ① 挨拶、テーマ説明、パネリスト紹介
- ② 現状と課題の共有
- ③ 解決策と取組の共有
- ④ 未来への提案



なりたいじぶん大学。

明海大学

MEIKAI UNIVERSITY

外国語学部 / 経済学部 / 不動産学部 / ホスピタリティ・ツーリズム学部 / 保健医療学部 / 歯学部